

# WHO news August 2022

2022年8月1日

## [Joint statement by UNICEF Executive Director Catherine Russell and WHO Director-General Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus on the occasion of World Breastfeeding Week](#)

As global crises continue to threaten the health and nutrition of millions of babies and children, the vital importance of breastfeeding as the best possible start in life is more critical than ever. This World Breastfeeding Week, under its theme *Step up for breastfeeding: Educate and Support*, UNICEF and WHO are calling on governments to allocate increased resources to protect, promote and support breastfeeding policies and programmes, especially for the most vulnerable families living in emergency settings.

### **世界母乳育児週間、テーマは「母乳育児支援のステップアップ」**

8月1～7日は世界母乳育児週間です。今年のテーマは「母乳育児支援のステップアップ Step up for breastfeeding」です。

ユニセフとWHOは、各国政府に対し、特に緊急事態に暮らす最も脆弱な家庭のために、母乳育児政策とプログラムを保護、促進、支援するための資源を増やすよう呼びかけています。

母乳育児は、乳幼児にとって安全で栄養価の高い、利用しやすい食料源を保証するものです。母乳育児は、病気や、消耗症を含むあらゆる形態の子どもの栄養失調に対する強力な防御策となります。また、母乳育児は赤ちゃんにとって最初のワクチンとなり、一般的な小児疾患から子どもを守ることができます。

しかし、緊急事態の現場で母親が経験する精神的苦痛、肉体的疲労、スペースやプライバシーの欠如、不衛生な環境は、多くの赤ちゃんが母乳の恩恵を受けられず、それは生き延びることができないことを意味しています。

生後1時間以内に母乳を与えられる新生児は全体の半数以下であり、病気や死に直面しやすい状態になっています。また、生後6カ月に母乳だけで育てている乳幼児はわずか44%で、2025年までに50%にするという世界保健総会の目標には届きません。

母乳育児を保護、促進、支援することは、究極の自然で持続可能な第一の食糧システムである地球を守るためだけでなく、何百万人もの乳児の生存、成長、発達のために、これまで以上に重要なことです。

そのため、ユニセフとWHOは、政府、ドナー、市民社会、民間企業に対し、以下の取り組みを強化するよう呼びかけています。

---

2022年8月1日

## [70 years of GISRS, decades of collaboration](#)

On the 70th anniversary of the Global Influenza Surveillance and Response System (GISRS),

industry acknowledges a long-standing collaboration for improved influenza preparedness. Vaccines are the best way of protecting the most vulnerable against influenza. Every year, vaccine manufacturers have around just six months to make seasonal influenza vaccines available for each hemisphere. Each season, they rely on their close relationship with GISRS to access robust and timely information so that vaccines can be ready on time.

## インフルエンザ監視対応システム (GISRS) 70 年

ワクチンは、最も脆弱な人々をインフルエンザから守る最良の方法です。

各シーズン、各ワクチンメーカーは、GISRS (グローバル・インフルエンザ・サーベイランス & レスポンス・システム) の 70 周年にあたり、インフルエンザ対策向上のための長年の協力関係を確認し、互いの緊密な関係により、確実にタイムリーな情報にアクセスし、各半球でワクチンを半年以内に準備することができます。

インフルエンザワクチンメーカーは GISRS の長年のパートナーであり、インフルエンザを予防するためのワクチンを製造・供給するという目的のために、世界中の大手多国籍企業と地元メーカーが協力し合っています。

GISRS は官民の模範的な協力体制であり、インフルエンザワクチンの接種能力を高め、摂取を促進するための強固な基盤となっています。私たちは、この共同の目的のために引き続き尽力していきます。

---

2022 年 8 月 1 日

## [WHO publishes new guidelines on HIV, hepatitis and STIs for key populations](#)

Today, WHO published new [Consolidated guidelines on HIV, viral hepatitis and STI prevention, diagnosis, treatment and care for key populations](#). The guidelines are officially launched at the AIDS 2022 Conference in Montreal, Canada, in a satellite session entitled: Launching new WHO guidelines for key populations: Focus for impact.

The guidelines outline a public health response to HIV, viral hepatitis and sexually transmitted infections (STIs) for 5 [key populations](#) (men who have sex with men, trans and gender diverse people, sex workers, people who inject drugs and people in prisons and other closed settings).

## キーポピュレーション向けの HIV、肝炎、性感染症に関する新ガイドライン

WHO は『HIV、ウイルス性肝炎、STI の予防、診断、治療、ケアに関する新しい統合ガイドライン』をキーポピュレーション向けに発表しました。

このガイドラインは、5 つの主要な集団 (キー・ポプレーション : 男性とセックスする男性、トランスおよび性別の多様な人々、セックスワーカー、薬物を注射する人々、刑務所やその他の閉鎖的な環境にいる人々) に対する HIV、ウイルス性肝炎、性感染症 (STI) への公衆衛生上の対応について概説しています。

UNAIDS (国連合同エイズ計画) の新しいデータによると「新規 HIV 感染の約 70 % は、キーポピ

ュレーションとそのパートナーの間で起こっている」とされています。

キーポピュレーションにとっては、社会的、法的、構造的、その他の状況的要因が、HIV、ウイルス性肝炎、STI に対する（防御の）脆弱性を高め、保健医療サービスやその他の必須サービスへのアクセスを阻害しています。このガイドラインは、すべての環境において構造的な障壁に優先的に対処することの重要性を強調しています。

---

2022 年 8 月 2 日

## [WHO applauds agreement to scale-up generic manufacturing for access to long-acting injectable antiretrovirals](#)

WHO welcomes the announcement of a new voluntary licensing agreement for patents relating to long acting-cabotegravir (CAB-LA) between ViiV Healthcare and the Medicine Patent Pool. This agreement will give selected generic manufacturers the opportunity to develop, manufacture and supply generic versions of CAB-LA in 90 low- and middle-income countries, subject to required regulatory approvals. This is a critical step to support long-term access in the least developed, low-income and lower middle-income countries around the world, including countries in sub-Saharan African..

### **WHO、長時間作用型注射用抗レトロウイルス薬へのアクセスのためのジェネリック医薬品製造の拡大に関する合意を称賛**

WHO は、ヴィーブヘルスケア (ViiV Healthcare) 社と医薬品特許プール (MPP) による持効性注射剤の HIV 治療薬カボテグラビル (CAB-LA) 関連の特許に関する新たなボランタリーライセンス契約の発表を歓迎します。この薬品は HIV 感染のリスクが高い人々に PrEP (pre-exposure prophylaxis : 暴露前予防内服) に代わる安全で効果的な選択肢として期待される長時間の効果期待できる注射薬です。

この契約により、ジェネリック医薬品メーカーは、必要な規制当局の承認を得た上で、90 の中低所得国で CAB-LA のジェネリック医薬品を開発、製造、供給する機会を得ることができます。これは、サハラ以南のアフリカ諸国を含む世界中の後発開発途上国、低所得国、低中所得国での長期的なアクセスを支援するための重要なステップとなります。

WHO の CAB-LA に関する新しいガイドラインでは、PrPE に代えて CAB-A を 2 カ月に 1 回注射で投与する方法を推奨しており、WHO は、ViiV 社と MPP が、HIV 感染のリスクが高い人々にこの重要な新しい予防手段を支援する道筋を示していることに賛辞を贈りたいとしています。

---

2022 年 8 月 2 日

## [New global alliance launched to end AIDS in children by 2030](#)

Globally, only half (52%) of children living with HIV are on life-saving treatment. UNAIDS, UNICEF, and WHO have brought together a new alliance to fix one of the most glaring

disparities in the AIDS response.

## 2030年までに子どものエイズをなくすための新たなグローバル・アライアンスが発足

このたび発表された「UNAIDS Global AIDS Update 2022」のデータによると、世界的に見て、HIVとともに生きる子どものうち救命治療を受けているのはわずか半分（52%）で、4分の3（76%）が抗レトロビルを投与されている大人に大きく遅れをとっていることが明らかになりました。子どもたちの進歩の停滞と、子どもと大人間の格差の拡大を懸念し、UNAIDS、ユニセフ、WHOおよびパートナーは、10年後までにHIVとともに生きる子どもが治療を受けられないことがないようにし、新たな乳児HIV感染を防ぐために、世界規模の提携を結びました。

カナダのモントリオールで開催された国際エイズ会議において、「2030年までに子どものエイズをなくすための新しいグローバル・アライアンス」が発表されました。

この同盟には、国連機関に加え、HIVとともに生きる人々のグローバルネットワークを含む市民社会運動、最も影響を受ける国の政府、そしてPEPFAR（米国大統領エイズ救済緊急計画）や世界基金を含む国際的なパートナーが参加しています。第1期では12カ国がアライアンスに参加しています。

---

2022年8月3日

### [World Patient Safety Day 2022](#)

Medications are the most widely utilized interventions in health care, and medication-related harm constitutes the greatest proportion of the total preventable harm due to unsafe care, let alone the economic and psychological burden imposed by such harm. Acknowledging this substantial burden and recognizing the complexity of medication-related harm prevention and reduction, the theme of World Patient Safety Day 2022 is “Medication Safety”.

## 2022年世界患者安全の日 - 投薬関連の危害防止・軽減をテーマとして -

9月17日は「世界患者安全の日（WPSD：World Patient Safety Day）」です。

医療における予防可能な危害全体のうち、薬害が占める割合は50%です。世界の総医療費のうち420億米ドルは、投薬ミスが防げれば回避できるものです。

投薬は医療において最も広く利用されている介入であり、投薬関連の危害は、そのような危害によって起きる経済的・心理的負担は言うまでもなく、安全でないケアによる予防可能な危害全体の中で最大の割合を占めています。

この大きな負担を認識し、投薬関連の危害防止・軽減の複雑さを認識した上で、2022年の世界患者安全デーのテーマは「Medication safety」、スローガンは「Medication without harm」です。

（備考）世界患者安全の日は、2019年のWHO総会において、「患者安全を促進すべくWHO加盟国による世界的な連携と行動に向けた活動を行うこと」を目的として制定されました。

---

2022年8月8日

## [World Health Summit 2022](#)

The World Health Organization looks forward to co-organizing this year's World Health Summit (WHS), 16-18 October in Berlin, Germany.

The 2022 World Health Summit aims to stimulate innovative approaches to health challenges worldwide; reaffirm the position of global health as a key political issue, foster health and well-being of all, and strengthen the international exchange of information

The WHS 2022 will create synergies and combine forces by engaging all relevant global health leaders and stakeholders from all sectors in all regions of the world.

## 世界保健サミット 2022

世界保健サミット (WHS) が 10 月 16 日から 18 日までドイツのベルリンで開催されます。

WHS2022 の新たな戦略的重点は、グローバルヘルスの資金調達です。そのため、主要な金融機関、投資家、ドナー、財団を集め、世界共通財への投資について議論が行われる予定です。ステークホルダーをつなぐことは、常に世界保健サミットの特徴となっています。

3 日間・60 セッション・100 カ国・300 人の講演者・6,000 人の参加者が予定され、議論される主なテーマは以下の通りです。

- 健康とウェルビーイングのための投資
- 気候変動と地球の健康
- パンデミック対策のためのアーキテクチャ
- フードシステムと健康
- 医療システムの強靱性と公平性
- 平和のためのグローバルヘルス

---

2022年8月8日

## [Global guidance on criteria and processes for validation: elimination of mother-to-child transmission of HIV, syphilis and hepatitis B virus](#)

Validation of elimination of mother-to-child transmission, or vertical transmission, of HIV, syphilis and hepatitis B virus (HBV), is an attestation that a country has successfully met standard criteria for elimination, or for being at 1 of the 3 levels of achievement on the 'Path to Elimination' while delivering quality services for women, girls and their children, through the life-course, respecting human rights and ensuring gender equality and community engagement. This document, the third version, adds on EMTCT of hepatitis B virus (HBV), bringing together a package of interventions and metrics to support integrated management and monitoring of vertical transmission across a wide range of epidemiological and programmatic contexts.

## HIV、梅毒、B 型肝炎ウイルスの母子感染の排除のためのグローバルガイドランス第 3 版

HIV、梅毒、B型肝炎ウイルス (HBV) の母子感染または垂直感染の排除の検証は、その国が人権を尊重し、男女平等とコミュニティの関与を確保しながら、ライフサイクルを通じて女性、少女とその子どもたちのために質の高いサービスを提供しながら、排除のための標準基準をうまく満たしているか、「排除への道」の3段階の達成レベルのうちの1段階にあるという証明になるものです。

このガイダンスでは第3版で、B型肝炎ウイルス (HBV) の母子感染の排除 (EMTCT : Elimination of mother-to-child transmission of HIV) を追加し、幅広い疫学的・プログラムの状況にわたって垂直感染の統合管理とモニタリングを支援するための介入と測定基準をパッケージとしてまとめたものです。

EMTCT の検証を達成することは非常に大きな成果となりますが、この状態を維持することも同様に重要であり、乳幼児、子供、成人の新規感染を防ぐための持続的で幅広い計画的活動の努力が必要となり、どの国でも、成功は支持者、政策立案者、医療従事者、地域社会の代表者の総合的な努力にかかっています。

WHO とパートナーは、HIV や HBV とともに生きる女性の人権を尊重し保護する包括的なサービスを提供する保健システムの能力を強化し、サービスが強制的でなく、HIV、梅毒、肝炎の影響を受ける女性、子ども、家族の人権が保護されるように、サービスの計画や提供に女性が参加できるよう、各国を引き続き支援していきます。

---

2022年8月9日

## [International Day of the World's Indigenous Peoples](#)

There are an estimated 476 million indigenous peoples in the world living across 90 countries. They make up less than 5 per cent of the world's population, but account for 15 per cent of the poorest. They speak an overwhelming majority of the world's estimated 7,000 languages and represent 5,000 different cultures.

Indigenous peoples are inheritors and practitioners of unique cultures and ways of relating to people and the environment. Indigenous peoples' conceptualization of health and well-being is generally broader and more holistic, with health frequently viewed as both an individual and a collective right, strongly determined by community, land and the natural environment. Article 24 of the United Nations Declaration on the Rights of Indigenous Peoples recognizes the right of indigenous peoples to their traditional medicines, to maintain their health practices and to access social and health services without discrimination.

## **世界の先住民の国際デー**

8月9日は「世界の先住民の国際デー」です。これは、1982年にジュネーブで開催された「先住民に関する国連ワーキンググループ」の第1回会合にちなんで設けられたものです。

世界には、90カ国にまたがる推定4億7,600万人の先住民が暮らしています。彼らは世界人口の5%未満ですが、最貧困層の15%を占めています。彼らは、世界に存在する7,000の言語のうち圧倒的多数を話し、5,000の異なる文化を代表しています。

先住民は、独自の文化や人々や環境との関わり方を継承し、実践しています。文化的な違いはあっても、世界の先住民は、異なる民族としての権利の保護に関する問題を共有しています。

国連経済社会局 (DESA) は、8月9日、今年のテーマ『伝統的知識の保存と伝達における先住民族女性の役割』に焦点を当てた『国際デー・バーチャル記念式典』を開催します。

式典の講演者達は、効果的で持続可能な気候変動対策、天然資源の利用、生物多様性の保護、食糧安全保障、先住民族の言語と文化の促進、先住民族の科学と医療の管理など、共同体のさまざまな分野で伝統的な先祖の知識を保存、復活、保持、伝達するための専門知識と経験を世界に共有します。

---

2022年8月9日

## [Preventing injuries and violence: an overview](#)

This brief advocacy document highlights the burden, risks and prevention of injuries and violence, which took the lives of 4.4 million people in 2019 and constitute 8% of all deaths. Among the injury-related causes of death include road traffic crashes, drowning, falls, burns, poisoning and violence against oneself or others. For people age 5-29 years, three of the top five causes of death are injury-related, including road traffic injuries, homicide, and suicide.

### **傷害と暴力の防止：提言概要**

この提言は、2019年に440万人の命を奪い、全死亡者の8%を占める傷害と暴力について、その負担、リスク、予防を強調するものです。

傷害に関連する死因の中には、交通事故、溺死、転落、火傷、中毒、自分または他人に対する暴力が含まれます。とりわけ5～29歳では、死因の上位5つのうち3つが傷害関連（含、交通事故、殺人、自殺）によるものです。

この提言は、公衆衛生専門家、傷害予防の研究者、実務者、支援者、そして寄付者を対象に「傷害と暴力の予防に有効で、費用対効果の高い、確かな科学的根拠に基づく特定の戦略」が必要なことを喚起するものです。

---

2022年8月10日

## [Launch of first WHO position paper on optimizing brain health across life](#)

The [new WHO position paper](#) launched on 9 August 2022 presents a framework for understanding brain health and the importance of brain health optimization for all. Brain health can be defined as the state of brain functioning across cognitive, sensory, social-emotional, behavioral and motor domains, allowing a person to realize their full potential over their life course, irrespective of the presence or absence of disorders.

### **脳の健康の最適化に関する WHO 初のポジションペーパー**

脳と中枢神経系は人体の司令塔であり、意識と無意識の両方の身体機能を制御することで、生活のあ

らゆる側面に影響を及ぼしています。脳が病気やその他の要因で障害を受けると、個人の健康や幸福だけでなく、世界の発展や生産性にも重大な影響を及ぼすことになります。

3人に1人が人生のある時点で神経障害を発症すると言われており、神経障害は障がいの原因の第1位、死亡原因の第2位となっています。

WHOの新しいポジションペーパーは、脳の健康を理解するためのフレームワークと、すべての人のための脳の健康最適化の重要性を提示しています。脳の健康とは、認知、感覚、社会・感情、行動、運動の各領域において脳が機能している状態であり、障がいの有無にかかわらず、人が生涯を通じてその潜在能力を十分に発揮できる状態と定義することができます。

脳の健康に影響を及ぼす決定要因は数多く知られており、本ポジションペーパーでは、以下の決定要因について考察しています。

- 身体の健康
- 健康的な環境
- 安全・安心
- 学習と社会とのつながり
- 質の高いサービスへのアクセス

※ ポジションペーパー：「立場表明書」の意味。あるトラブルが発生した時、その事態の発生から直近に至るまでの経緯を時系列にまとめた報告書。これによって、当該事態に至る要因を把握できる。

---

2022年8月17日

## [WHO releases updated guidance on national strategic planning for tuberculosis](#)

The World Health Organization (WHO) is releasing new [guidance](#) to support national strategic planning for the tuberculosis (TB) response. The guidance encourages the use of a people-centric focus in the development of national TB strategic plan (NSP). It highlights the importance of government stewardship and ownership, promotes alignment with national health strategy and other health programmes, emphasizes multi stakeholder and multi-sectoral engagement as one of the key steps for multisectoral accountability for TB.

### **結核対策の国家戦略計画を支援するための新しいガイダンス**

WHOは、結核対策の国家戦略計画を支援するための新しいガイダンスを発表しました。本ガイダンスは、国家結核戦略計画（NSP：national TB strategic plan）の策定において、国民中心主義を用いることを奨励しています。また、政府の責任とオーナーシップの重要性を強調し、国家保健戦略や他の保健プログラムとの整合を図り、結核に対する多部門の説明責任のための重要なステップの1つとして、多部門の関係者の関与を強調しています。

本ガイダンスは、結核の予防・ケア・コントロールのための国家戦略計画を策定するための2015年版ツールキットの更新版となるものです。



---

2022年8月17日

## [Intergenerational Solidarity and adolescent wellbeing](#)

[Ageism](#) is an insidious and often an unaddressed issue in health, human rights, and development, and has bearings on both older and younger populations around the world. For young people, ageism can mean that their voices are ignored. Even when asked to provide inputs to policies, programmes and projects that affect them, young people's opinions are often not taken seriously. This is particularly true when it comes to [adolescents' sexual and reproductive health](#), because of persistent denial of adolescents as sexual beings.

### 世代間連帯と青少年のウェルビーイング

8月12日は、国連が定めた「国際青少年デー」です。

エイジズム（年齢に対する偏見：ある物事に対し「若いのに」とか「年老いているくせに」という偏見）は、健康、人権、開発における陰湿でしばしば対処されない問題であり、世界中の高齢者と若者に影響を及ぼしています。

WHOはエイジズムと闘い、若者を単に受け手としてではなく、パートナーとして活動に参加させるよう努力し、過去10年間、WHOはさまざまなプログラムやイニシアティブにおいて、若者たちとの強い関わりを築いてきました。

25年前、WHOの部局の中で思春期の健康に取り組んでいたのはほんの一握りでした。現在では、15以上の部局が青少年に影響を与えるグローバルな健康問題の解決策を考案し、その推進に携わり、青少年と一緒に取り組んでいます。これには、メンタルヘルス、HIV/AIDS、結核への取り組みに青少年や若者を参加させる取り組みが含まれます。最近では、月経の健康や環境衛生の促進、非感染性疾患（NCD）の予防、青年が自分の健康を管理できるようにするためのセルフケアの促進にまで広がっています。

2022年1月、WHOは思春期の健康に関する国連の活動に関する最初の報告書「明るく健康的な未来のために働く」を発表しました。この報告書は、研究の優先順位の設定、規範や基準の策定支援、注目と投資のための提唱、国レベルの行動の支援、これらすべてにおける有意義な関与のための能力開発など、思春期の健康に関するさまざまな問題やアプローチを網羅しています。

WHOが2017年に発表した「思春期の健康のためのグローバル加速行動（AA-HA!）：国の実施を支援するガイダンス」は、政策対話に若者を参加させ、国の思春期の健康戦略の策定における主要なステークホルダーとして、大きな役割を果たしました。その第2版は、母子保健パートナーシップ（PMNCH）が主催する2023年10月の「思春期のためのグローバルフォーラム」で発表される予定です。

青少年のウェルビーイングの優先順位を上げ、彼らに関わるすべての問題に青少年を有意義に関与させ、世代間の連帯を育むことによって、私たちは共に「すべての時代のための世界」を作ることができるのです。

---

2022年8月17日

## [Now 7 million enrolments strong: Join the OpenWHO.org learning community](#)

The World Health Organization is celebrating a new milestone in online learning: 7 million enrolments in [OpenWHO.org](#)'s free public health courses!

The record-setting participation comes as health emergencies continue to affect communities across the globe, generating demand for trusted and accessible public health knowledge.

OpenWHO course enrolments have surged more than 4000% percent in just over 2.5 years, increasing from 160 000 in January 2020 to 7 million in August 2022.

### **OpenWHO.org の登録者 700 万人突破**

オンラインの無料公衆衛生コース『OpenWHO.org』の登録者数が 700 万人を突破しました。

この記録的な参加者数は、健康上の緊急事態が世界中のコミュニティに影響を与え続け、信頼性が高くアクセスしやすい公衆衛生の知識に対する需要を生み出していることを表しています。

OpenWHO コースの登録者数は、2020年1月の16万人から2022年8月の700万人へと増加しています。

OpenWHO プラットフォームでは、COVID-19 パンデミック、サル痘、ポリオ、コレラ、マールブルグウイルス病、ペストなどの発生への対応を支援するトレーニングや、食糧不安やウクライナの危機などの現在進行形のイベントなど、165 の公衆衛生トピックに関するコースを開催しています。

このコースは 65 カ国語で提供されており、最近ではジョージア語も追加されました。これにより、コミュニティは命を守るための公衆衛生情報を母国語で利用できるようになり、より理解しやすくなりました。この中には、世界で最も多く話されている 15 言語と、後発開発途上国 46 カ国のうち 44 カ国の公用語が含まれています。

OpenWHO の学習者には 370 万以上のコース修了証が発行され、学習者は 5 万以上のデジタルバッジをソーシャルメディア上で共有し、その成果を祝っています。

---

2022年8月17日

## [World Humanitarian Day 2022](#)

On 19 August 2003, a bomb attack on the Canal Hotel in Baghdad, Iraq, killed 22 humanitarian aid workers, including the UN Special Representative of the Secretary-General for Iraq, Sergio Vieira de Mello. Five years later, the General Assembly adopted a resolution designating 19 August as World Humanitarian Day (WHD).

Each year, WHD focuses on a theme, bringing together partners from across the humanitarian system to advocate for the survival, well-being and dignity of people affected by crises, and for the safety and security of aid workers.

This year, for WHD, we show the importance, effectiveness and positive impact of humanitarian work.

### **世界人道デー**

8月19日は世界人道デーです。2003年8月19日、イラク・バグダッドのカナルホテルで爆弾テロが発生し、国連イラク事務総長特別代表を含む22人の人道支援関係者が死亡しました。その5年後、国連総会は8月19日を「世界人道デー (WHD : World Humanitarian Day)」とする決議を採択しました。

最初のWHDから13年が経ち、援助コミュニティは巨大な危機と格闘しています。紛争、気候変動、地政学、パンデミック、貧困、戦争などが壊滅的に重なり、人道支援を必要とする人々の数は過去最高の3億300万人に達しています。

WHDは毎年テーマを決め、人道支援システム全体からパートナーを集め、危機に瀕した人々の生存、幸福、尊厳、そして援助関係者の安全と安心を擁護しています。今年のWHDは、緊急の医療、シェルター、食料、保護、水などを提供する何十万人ものボランティア、専門家、危機的状況にある人々に光を当てる予定です。

世界保健機関 (WHO) は #ItTakesAVillage を中心にソーシャルメディアで人道的保健活動を紹介する予定です。

---

2022年8月23日

## [Alliance for Transformative Action on Climate and Health](#)

The Alliance for Transformative Action on Climate and Health (ATACH; “the Alliance”) works to realize the ambition set at COP26 to build climate resilient and sustainable health systems, using the collective power of WHO Member States (“Member States”) and other stakeholders to drive this agenda forward at pace and scale; and promote the integration of climate change and health nexus into respective national, regional and global plans.

### **「気候変動と健康に関する変革的行動のための同盟 ATACH」への参加募集**

気候変動と健康に関する変革的行動のための同盟 (ATACH ; Alliance for Transformative Action on Climate and Health、以下「同盟」) は、COP26 で掲げられた、気候変動に強く持続可能な保健システムを構築するという野心の実現に向けて、WHO 加盟国やその他のステークホルダーの力を結集してこの課題をスピードと規模で推進し、気候変動と健康の繋がりをそれぞれの国家、地域、世界計画に統合するよう働きかけています。

---

2022年8月23日

## [WHO makes new recommendations for Ebola treatments, calls for improved access](#)

The World Health Organization (WHO) has published its first guideline for Ebola virus disease therapeutics, with new strong recommendations for the use of two monoclonal antibodies. WHO calls on the global community to increase access to these lifesaving medicines.

Ebola is a severe and too often fatal illness caused by the Ebola virus. Previous Ebola outbreaks

and responses have shown that early diagnosis and treatment with optimized supportive care — with fluid and electrolyte repletion and treatment of symptoms—significantly improve survival. Now, following a systematic review and meta-analysis of randomized clinical trials of therapeutics for the disease, WHO has made **strong recommendations for two monoclonal antibody treatments: mAb114 (Ansuvimab; Ebanga) and REGN-EB3 (Inmazeb).**

## **エボラ出血熱の治療法について新たな勧告：2種類のモノクローナル抗体の使用を強く推奨**

WHO は、エボラウイルス感染症治療薬に関する初のガイドラインを発表し、エボラ出血熱の治療薬に関する無作為化臨床試験の系統的レビューとメタ分析に基づき、新たに2種類のモノクローナル抗体 (mAb114 (Ansuvimab) と REGN-EB3 (Inmazeb) ) の使用を強く推奨することを明らかにしました。WHO は、国際社会に対し、これらの救命薬へのアクセスを拡大するよう呼びかけています。

エボラ出血熱は、エボラウイルスによって引き起こされる重篤であまりにも多くの場合死に至る病気です。これまでのエボラ出血熱の発生とその対応から、早期診断と最適な対症療法 (水分と電解質の補給、症状に対する治療) による治療が生存率を大幅に向上させることが明らかになっています。

---

2022年8月23日

### **United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs (OCHA) and WHO**

OCHA and WHO work side by side to deliver rapid, life-saving humanitarian assistance to those in need, whenever and wherever disease outbreaks strike, in response to natural disasters, and during complex crises.

## **国連人道問題調整事務所 (OCHA) と WHO**

OCHA (United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs) は、共同人道支援を妨げる障害を克服し、できるだけ早い段階での人道活動の提唱、調整、資金調達において重要な役割を担っており、中央緊急対応基金 (CERF) と国別基金 (CBPF) という2つの資金調達メカニズムを通じて、WHO の人道的保健プログラムに多大な貢献をし、2020年から2年間のOCHA 寄付は全体で2億100万米ドルに達し、発生危機と対応 (OCR) の上位ドナーリストの3位にランクインしています。

WHO と OCHA は、各国と協力して危機に備え、疾病の発生時、自然災害への対応時や複合的な危機の際に、いつでもどこでも必要とする人々に、迅速で命を救う人道支援を提供するために共働し、十分に調整された対応をしています。

最近の支援の例としては、アフガニスタンやエチオピア北部での複雑な緊急事態に対する人道的保健対応、ハイチ、グアテマラ、ニカラグアの自然災害への対応、最も脆弱な国々での COVID-19 パンデミックに対する早期世界対応などが挙げられます。

また、ウクライナとその周辺国の現場で、紛争、COVID-19、ポリオ、その他の健康上の脅威の影響を受けた人々が保健サービスを利用できるようにし、人命を救うために協力しています。

---

2022年8月23日

## WHO Director-General's opening remarks at the 72nd session of the Regional Committee for Africa – 22 August 2022

Last week marked the beginning of my second term as Director-General. I started my second term last Tuesday, that's August 16th.

I deeply appreciate the trust and support of African Member States during my re-election.

I can think of no better place to begin my second term than at home, here in Africa, Lomé, Togo.

### **第 72 回アフリカ地域委員会開催 (DG 開会挨拶)**

第 72 回アフリカ地域委員会におけるテドロス事務局長の開会挨拶の要旨は以下の通りです。

- 8月16日から事務局長としての2期目がスタート
- ワクチンアクセスの不平等にも拘わらず、この地域のCOVID-19の患者数や死亡者数が最低水準にあることは喜ばしい。
- WHOはすべての加盟国に対して医療従事者の100%と60歳以上の方の100%のワクチン接種を約束するよう引き続き要請する。
- アフリカ地域では1,100万人の乳幼児がワクチン未接種または接種不足のままとなっている。
- 2年前、この地域には野生型ポリオウイルスの根絶が宣言されたが、この1年間で、2つの加盟国から6件の野生型ポリオの報告があり、16カ国からは500件以上のワクチン由来ポリオの報告があった。
- サル痘のアフリカからの感染者は今年報告された全症例のうちわずか1%。
- 何百万人もの人々が飢餓に直面しているアフリカの大角で起きている健康・人道危機を深く憂慮
- 5つの優先事項；健康の促進・健康の提供・健康を守る・健康を強化する+主導的な役割を果たすために強化されたより強力なWHOを構築すること。

---

2022年8月24日

## China's vaccine regulator reaches new WHO rank to ensure safety, quality & effectiveness

The World Health Organization (WHO) today ranked China's vaccine regulatory system at a functional level of maturity according to WHO's global classification system for national medical products regulatory authorities.

### **中国のワクチン、品質・安全性・有効性でWHOのレベル3を達成**

WHOは、中国のワクチン規制システムを成熟度レベル3 (ML3) に位置付けました。

WHO の分類では、4 段階のうち 3 番目の成熟度レベル 3 (ML3) を達成したことが確認されましたが、最高レベルは成熟度レベル 4 (ML4) で、高度なパフォーマンスで運用され、継続的に改善されている規制システムです。

レベル ML3 は中国が国内で製造、輸入、流通するワクチンの品質や安全性、有効性を確保するため、安定に機能する統合された規制システムを有していることを意味します。

WHO 専門家チームは 2022 年 7 月、より包括的な評価ツールである WHO グローバルベンチマーキングツールを用いて、NMPA (National Medical Products Administration、中国国家医薬品监督管理局) に代表される中国 NRA (National Regulatory Authority, 規制当局) の中国におけるワクチンの規制に関する正式なベンチマーキングを実施し、ML3 達成を確認しました。

---

2022 年 8 月 24 日

## [WHO Director-General congratulates Togo on becoming first country to eliminate four neglected tropical diseases](#)

WHO Director-General, Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus, today extended his congratulations to the Republic of Togo, as it was confirmed that the West African country had become the first country to eliminate four devastating neglected tropical diseases.

### **トーゴ共和国、4 つの「顧みられない熱帯病」を撲滅した最初の国に**

西アフリカのトーゴ共和国が、4 つの壊滅的な「顧みられない熱帯病」を撲滅した最初の国になりました。

トーゴ共和国が撲滅した「ギニア虫症、リンパ系フィラリア症、アフリカトリパノソーマ症、トラコーマ」の 4 ついずれもの疾病は、深刻な経済的困難によってすでに疲弊している人々に更なる影響を与える疾病です。これらの病気は、一般的に「顧みられない熱帯病 (NTD)」と呼ばれる約 20 の疾病群の一つです。

---

2022 年 8 月 24 日

## [Donors making a difference in South-East Asia and the Western Pacific](#)

Contributions to WHO have helped Vanuatu become the first Pacific island country to eliminate a disease that causes blindness, improve the safety of Mongolia's food supply, and fight a deadly liver disease in Viet Nam.

### **ドナー（寄付）が東南アジアと西太平洋に変化を起こした**

東南アジアと西太平洋地域で WHO からの寄付がどのように役立っているのかについての事例が紹介されています。

1. バヌアツ：世界最大の失明原因であるトラコーマを撲滅
2. マーシャル諸島、ミクロネシア、パラオ：日本政府は COVID-19 に取り組む準備をするた

めの1年間のプロジェクトに資金援助

3. モンゴル：より安全な食品を確保し、健康の安全性を高めるために、食品システムを変革
4. ベトナム：C型肝炎対策
5. インドネシア：数百万人の子どもたちにワクチン接種
6. 太平洋島嶼国：WHO、太平洋島嶼国の医療チームの危機対応訓練を支援

---

2022年8月24日

## Japan, A champion for health and well-being at all ages

Japan has long been a committed supporter of global health and a dynamic partner of WHO, dedicated to making universal health coverage a reality in all countries and to leaving no one behind. Japan's contributions are being used to strengthen countries' health systems and fight the drug-resistant microbes that threaten to undermine the effectiveness of medicines, while promoting good nutrition, healthy ageing and more.

### 日本のWHOへの貢献

日本は長年にわたりグローバルヘルスを熱心に支援し、WHOのダイナミックなパートナーとして、すべての国でユニバーサル・ヘルス・カバレッジを実現し、誰ひとり取り残さないことに尽力してきました。日本の貢献は「各国の保健システムの強化、薬剤耐性との闘い、良好な栄養状態や健康的な加齢などの促進」に活用されています。

日本はWHOの上位10位の資金提供国であり、2020 - 21年の2年間で、2億1800万ドル（およそ250億円\*）を寄付し、そのうちの5000万ドルはCOVID-19のパンデミックへの対応に寄与しています。

また、日本は緊急時対応基金（CFE）に対して3200万ドル（およそ40億円）を拠出し、第2位のドナーであるとともに、人道危機におけるWHO保健緊急プログラム（WHE）を顕著に支援しており、2016年以降、シリアに6000万ドル、イエメンに300万ドルを含む1億1300万ドル（約150億円）を提供してきました。

さらに日本は2022年4月に、ウクライナおよび近隣諸国におけるCOVID-19を含む感染症対策として、WHOを支援する950万米ドル（10億円強）の協定に調印しました。

\* 概算交換レートによる

---

2022年8月25日

## After six months of war, Ukraine's life-saving health system prepares for a challenging winter ahead

At the six-month mark of the war in Ukraine, the country's badly affected but still-resilient health system is taking stock of lessons learned in providing life-saving care with the support of WHO and partners as it prepares for a challenging winter ahead.

## ウクライナ戦争から 6 カ月、WHO の取組み

ウクライナ戦争から 6 カ月、WHO は 150 を超える政府、国連、市民社会のパートナーと連携して、1300 トンを超える医薬品を届け、医療搬送のための 3 つのヘルスハブの設置や、80 以上の緊急医療チームの調整、医療相談、外傷・緊急手術、リハビリ用品の提供、医療避難の支援を行い、9000 人以上の医療従事者に、外傷手術、大量殺傷、化学物質への曝露、疫学、実験室診断など、さまざまな問題のトレーニングなどを実施してきました。

テドロス事務局長は「6 カ月にわたる戦争はウクライナの人々の健康と生活に壊滅的な影響を及ぼしましたが、多くの困難にもかかわらず、保健システムは何とか生き延び、最も必要とされる場所と時間にケアを提供しています。保健医療システムは崩壊していません。WHO は、ウクライナ国民の健康だけでなく、同国の回復と復興に不可欠な、中断したサービスや離職した医療従事者、破壊されたインフラの復旧のために、ウクライナ保健省への支援を続けています。しかし、どのようなシステムも戦争の下では国民に最適な健康を提供することはできません。だからこそ、私たちはロシア連邦にこの戦争を終わらせるよう求め続けているのです。」と述べています。

さらに、ウクライナ保健当局と WHO は、厳しい冬に備え、今後の重要な保健ニーズに対する最善の支援方法についての戦略を練っています。

---

2022 年 8 月 30 日

### Parliamentarians: Resilient health systems and preparedness for future emergencies critical to health security in Asia and the Pacific

Members of Parliament from 15 Asian and Pacific nations delivered a clear message: strengthening pandemic preparedness and health system resilience for the future is critical to keeping populations safe and supporting social and economic development in the region.

### アジア太平洋地域グローバルヘルス議員フォーラム：より強靱な保健システムの構築を

WHO が支援する第 6 回アジア太平洋地域グローバルヘルス議員フォーラム (APPFH : Asia-Pacific Parliamentarian Forum on Global Health) が 8 月 24 日から 25 日までソウルで開催され、15 カ国から国会議員が集まり、COVID-19 のパンデミックからの教訓を共有するとともに、将来の健康保障を強化し、より強靱な保健システムを構築するためのソリューション、行動、協力について議論しました。

その結果、「パンデミックへの備えと将来への医療システムの回復力を強化することが、人々の安全を守り、地域の社会・経済発展を支えるために不可欠である」という明確なメッセージを発信しました。

---



2022年8月31日

## WHO clinical consortium on healthy ageing 2021: report of consortium meeting held virtually, 5-6 November 2021

The 2021 annual meeting of the World Health Organization (WHO) Clinical Consortium on Healthy Ageing (CCHA) was the seventh gathering, held virtually this year, of an international multidisciplinary group of clinical experts, academics, policy makers and civil societies drawn from the full breadth of the field of ageing, to progress the work agreed by Member States under the 2016 WHO Global strategy and action plan on ageing and health. Six panels of presentation and discussion took place across two days (3 and 4 November):

### 2021 健康な高齢化コンソーシアム会議報告

2021年11月、健康な高齢化（ヘルシー・エイジング）に関するコンソーシアム（CCHA: Clinical Consortium on Healthy Ageing）の2021年年次総会が開催され、以下の報告、討論が行われました。

1) 国連「健康な高齢化の10年」（2021年～2030年）  
エイジズムに関するグローバルレポートの要約を紹介。

2) 内在的能力概念の検証

中国とブラジルの2つの縦断的研究の分析結果を共有。

3) 内在性能力のバイオマーカーと遺伝的基盤

ジェロサイエンス・アプローチのコホート概要など

※geroscience（ジェロサイエンス、geroは老化という意）

4) 口腔衛生

2021年の世界保健総会で採択された口腔保健に関する決議を踏まえ、2030年までに達成すべき明確で測定可能な目標の枠組みを含む世界口腔保健アクションプラン（2023年に発表予定）の検討

5) ICOPEパイロットプログラムと導入規模拡大

※ICOPE : integrated care for older people（高齢者のための包括的ケア）

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHOニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>